

(様式2・中学校用①)

令和3年度 学校評価報告

草加市立栄中学校

(令和4年2月9日作成)

1 学校教育目標 ○校訓 「自主」「自律」「親和」「協力」 ○学校教育目標 ・自ら学び考え行動する生徒 ・豊かな心を持ち思いやりのある生徒 ・健康でたくましい生徒 ○目指す学校像 ○一人一人がかげがえのない存在として大切にされる学校 ○人権や生命が尊重されお互いを認め合う「いいところ探し」の学校 ○生徒が「通いたい」保護者・地域が「通わせたい」学校	
2 重点目標・努力目標 ○幼保小中一貫教育の推進 ○地域と共にある学校づくりの推進 ○学年・学級経営の充実 ○学習指導の充実 ○豊かな心を育む指導の充実 ○積極的な生徒指導・教育相談の推進 ○健康な体づくりの推進 ○特別支援教育の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○「草加っ子の学びを支える5か条を意識するとともに、積極的にICTを活用した授業を実施し、わかる授業の実践をすすめることができた。 課題 ●学校全体で自己肯定感・有用感を高める取組について、各教科等での位置づけを行う。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営方針をもとに、各委員会、分掌会等を通じ、教職員一人一人が組織的に学校運営に携わった。 ●組織の見直しと一層の活性化を図る。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○全員が参加した授業研究会を実施し、授業力の向上が図れた。 ○タブレット、ICTを積極的に活用した。 ●ICTのより効果的な活用を図る。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○合同引き渡し訓練を実施したり、各クラスに危機管理マニュアルの設置を行った。 ○コロナ禍にも協力して感染防止に努めた。 ●感染再拡大に伴い、感染拡大防止の徹底を図る。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○校内規定による個人情報管理や校務支援システムによる情報管理を行うことができた。 ●危険箇所の把握に努め、速やかな施設の修繕・改修を進める。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○HP、各種便り等で情報の発信ができた。 ○コロナ禍であったが学校公開を1回実施できた。 ○学校運営協議会を予定通り実施できた。 ●地域・校種間連携が限定的であった。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○児童・生徒の交流については難しかったが、教員間では組織的に内容検討をすることができた。 ●来年度の読書活動推進に向けてな組織作り・実施内容等の検討を行う。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各配付物等を通じ、教育目標・方針の周知と回り教育活動を実践することができた。 ●教育計画や教育活動について発信する機会を増やし、保護者・地域の理解を深めるようにする。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の整備が進み、積極的活用による授業が行われている。 ○学力向上プランに自己肯定感・有用感を高める工夫について位置付け実践を行った。 ●ONLINE等での外部人材の活用を図る。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○講師をお呼びして全員が参加した研修会を通じ、授業力の向上を図ることができた ○発達段階に応じた命の教育を実施した。 ●考え議論する道徳の充実を図る。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○活動に制限が多かったが、時期や方法を工夫し実践することができた。 ●コロナ禍での行事や生徒会活動のあり方について検討を行う。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で計画通りはできなかったが、内容を工夫して実施した。 ●指導計画・内容の再検討を行い、学校の特徴踏まえた実践を行う。
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会・教育相談部会等で組織的に対応することができた。 ●不登校対応や生徒一人一人に応じた指導方法について研修と実践を行う。
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の中であったが、各学年で指導内容を工夫して実施することができた。 ●経験活動やキャリア教育の全体計画・学年ごとの指導・保護者への情報発信について検討を行う。
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○通常学級においても特別支援教育の指導方法を生かした授業等を行う教科が増えた。 ●個々の生徒への支援の在り方や諸機関との連携、校内での支援体制について組織的に対応を行う。
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○司書教諭と学校司書の連携により季節感のある図書館整備がすすめられた。 ●来年度の中学校区での発表にあたり、授業での活用や読書活動の充実を小中で連携して進める。
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各授業でタブレットと大型ディスプレイを活用した授業を推進することができた。 ●より効果的な活用について各教科等での情報交換を行い、わかる授業の一層の充実を図る。
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権作文や人権標語の取組を通じて、人権への意識を高めることができた。 ●各教科等での人権感覚の位置づけを明確にするとともに、新しい人権問題についても啓発を行う。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	①地域に開かれた学校づくり	・外部人材の活用 ・保護者との連携 ・関係諸機関との連携	B	○学校運営協議会を予定通り実施することで、地域の考えを教育活動に生かすことができた。 ●コロナ禍でもあり外部人材の活用が進まなかった。方策を考え実施をする。
	②幼保小中一貫教育	・15年間の系統的教育の実施 ・異校種間交流の推進	B	○制約のある中で、直接交流する機会はなかったが、方法を検討する中で実施できるものについては行うことができた。 ●小中の接続期を意識した読書活動の推進を図る。
	③自己肯定感・有用感を高める教育の推進	・授業等での計画的な実施 ・互いを認めあうことのできる学級づくり、諸活動の推進	B	○生徒の自己評価でほぼすべての項目について90%以上の肯定的な評価をしており学校生活に満足感を持っていると思われる。 ○各教科等学力向上プランに具体的な指導を位置付け実践を図ることができた。 ●小中が一貫して自己肯定感や有用感を高める教育を推進していく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

○生徒指導委員会や教育相談部会で情報共有を図り、早期発見・早期解決・事後の見守りを行ったことにより、生徒は概ね落ち着いた学校生活を送ることができていたが、登校渋りや不登校の生徒が増加傾向にあった。

○コロナ禍にあり、通常の学校生活を送ることは難しい状況にあったが、感染拡大防止に配慮しながら、どうすればできるかを考え教育活動を実施することができた。

○「草加っ子の学びを支える5か条を意識するとともに、配備されたタブレット・大型ディスプレイを積極的に活用した授業を実施しすることができた。

○昨年度は実施できなかった年度の早い時期での学校公開を実施することができたが、コロナ禍でもあり、多くの取組について実施が難しい状況であった。

○生徒自身が自分たちの生活を振り返り、高評価をしていたことから、行事等ができない中であつたが、有意義な学校生活を送らせることができたと考えられる。

○「特別の教科 道徳」について全員が参加した授業研究会を実施することができ、授業力の向上を図ることができた

6 次年度の改善策

○学力不振の生徒への対応や他機関との連携、相談室の活用などについて組織的・積極的な取組を実施することで、登校渋りや不登校の改善を図る。

○満足度調査結果などの分析を行い、学年・学級での生徒の居場所づくりを進める。

○学校行事や学年の教育活動、PTA活動を見直し、実施の目的や教育効果について検討を行い、持続可能な学校教育を構築する。

○学校の取組について積極的に情報発信を行い、保護者・地域の理解を得る方策を行う。

○効果的なICT活用について授業実践を通じて研修を行い、お互いの授業を見合う等の取組を通し、教科を超えて共有化を図ることで授業力の向上に努める。

○特別支援教育の推進を行い、誰にとってもわかりやすい授業の実践に取り組むとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて研修を行う。

○自己肯定感・有用感を高める教育活動を推進するため、小中での発達段階に応じた取組を意識的に実施する。特に小中での読書活動の推進を実施する。

○より安全・安心な学校づくりをすすめるとともに、施設・設備面での改善を引き続き要望する。